



TITLE:

対馬浅茅湾のクラゲ類

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 対馬浅茅湾のクラゲ類. 長崎県生物学会誌 2004, 57: 13-15

ISSUE DATE:

2004

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179212>

RIGHT:

© 2004 長崎県生物学会

## 対馬浅茅湾のクラゲ類

久保田 信<sup>1)</sup>Medusozoa and Ctenophora recorded in Asou Bay,  
Tsushima Island, Nagasaki Prefecture, Japan

Shin KUBOTA

## はじめに

日本海の入りのほぼ中央部に浮かぶ対馬に大きくさびを打ち込んだ形の浅茅湾は、比較的大きな湾で、地形が複雑に入り組み、ポリブ世代をもつ沿岸性のクラゲ類にとっては、たとえばカイヤドリヒドラ類のように(久保田, 1999), 生活史をそこで完了させ次世代をつないでいけるほど生息に適した環境である。一方、この湾で一生を送るクラゲ類の他に、対馬暖流にのって遠方から運ばれてくる外来性のクラゲ類も出現する。例えば、今世紀になって異常発生を繰り返しマスコミをにぎわせているエチゼンクラゲも、主として中国から浅茅湾にも迷入することが1995年以来知られている(久保田ほか, 1996; W.S.F., 1999)。

これまで浅茅湾内のクラゲ類についての報告はごく限られたものしかなく、上述の鉢クラゲ類に属するエチゼンクラゲの他には、ヒドロ虫類に属する3種、マキヒゲクラゲ、カイヤドリヒドラクラゲ、およびコノハクラゲが知られているだけである(Kubota, 1995; 久保田, 1995; Kubota, 1997)。

浅茅湾内にどのようなクラゲ類が出現するのかについて、これまで著者によって、1992年より2年ごとに3回にわたり、それぞれの調査を1-4日かけてプランクトンネットを曳いて採

集し、出現を確認した種を今回すべて挙げた。この成果を地域的なクラゲ相が日本ではもっともよく解明されている和歌山県田辺湾の研究成果(久保田, 2003)と比較し、ここでの特性を考察した。ただし、浅茅湾内に見られる管クラゲ類については分類学的検討が不十分なため割愛した。

## 材料と方法

浅茅湾内の竹敷およびその周辺で、1992年8月20日、1994年9月27、28、29日、および1996年12月25、26、27、28日に、岸に接続した2つの浮き桟橋や岸から数kmほど沖合いの少数のポイントで小型の定性用簡易プランクトンネット(口径30cm、長さ55cm、網目0.334mm)を水平・鉛直に、1回に数十mほどずつ数度曳いてクラゲ類を採集した。ヒドロクラゲ類については採集後、生きたまますぐに双眼実体顕微鏡で観察して種を同定した。一方、鉢クラゲ類やクシクラゲ類などの大形の種では、目視により確認した。

## 結 果

2門3綱のそれぞれの目ごとに属名のアルファベット順に示した。和名があれば学名の後に付記した。

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海459  
京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

## 浅茅湾のクラゲ類相

(\*: 外来種; \*\*: 稀少種)

## 刺胞動物門

## ヒドロ虫綱

## 花クラゲ目

- Amphinema* sp. ツリアイクラゲ属の1種  
*Bougainvillia bitentaculata* エダクラゲ  
*Bougainvillia* sp. エダクラゲ属の1種  
*Cytaeis* sp. タマクラゲ属の1種  
*Ectopleura* sp. ソトエリクラゲ属の1種  
*Euphysa aurata* カタアシクラゲモドキ  
*Euphysoa bigelowi* カタアシクラゲ  
*Halitiara formosa* コエボシクラゲ  
*Leuckartiara* sp. エボシクラゲ属の1種  
*Pandeopsis ikarii*  
\*\**Podocoryne apicula*  
*Podocoryne minima* コツブクラゲ  
*Turritopsis nutricula* ベニクラゲ  
*Zanclea prolifera* スズブリクラゲ

## 軟クラゲ目

- Cirrhlovenia tetranema* マキヒゲクラゲ  
\*\**Clytia gardineri*  
*Clytia languida* フサウミコップ  
*Eucheilota paradoxica* コモチクラゲ  
*Eucheilota* sp. コモチクラゲ属の1種  
*Eugymnanthea japonica*  
カイヤドリヒドラクラゲ  
*Eutima japonica* コノハクラゲ  
*Tiaropsidium* sp.

## 淡水クラゲ目

- Proboscidadactyla ornata*  
ミサキコモチクラゲ

## 硬クラゲ目

- Aglaura hemistoma* ヒメツリガネクラゲ  
*Liriope tetrastyla* カラカサクラゲ  
*Petasiella asymmetrica* ボウシクラゲ

## 剛クラゲ目

- Cunina* sp.

*Solmundella bitentaculata*

ヤジロベエクラゲ

## 鉢虫綱

## 冠クラゲ目

- Nausithoe punctata* エフィラクラゲ  
旗口クラゲ目  
*Aurelia aurita* ミズクラゲ  
*Pelagia noctiluca* オキクラゲ  
根口クラゲ目  
*Mastigias papua* タコクラゲ  
\**Stomolophus nomurai* エチゼンクラゲ

## 有櫛動物門

## 有触手綱

## カブトクラゲ目

- Bolinopsis mikado* カブトクラゲ  
*Leucothea japonica* ツノクラゲ

## 考 察

以上のように2門3綱9目30属35種のクラゲ類が確認された。ただし、生殖巣が形成されておらず、種レベルまで同定が困難で属どまりの8種も含んでいる。今回報告した種はいずれも対馬が模式産地にはなっていない。

ヒドロ虫類では、*Podocoryne apicula* と *Clytia gardineri* の2種が本邦ではこれまで報告がほとんどなく、対馬に産するのは注目される。また、唯一の外来種であるエチゼンクラゲは、和歌山県沿岸をはじめ、南日本の黒潮の影響を受ける海域では出現しない。上記の3種以外は、いずれも太平洋岸で黒潮の影響下にある和歌山県田辺湾で見られる普通種がほとんどである。

今回のリストに挙げた種のすべてが生活史が解明されているわけではないが、その多くの種は沿岸性で、生活史のよくわかっていくカイヤドリヒドラクラゲやコノハクラゲのように(Kubota, 1995; Kubota, 1997; 久保田, 1999), 無性世代で底生生活を送るポリプが浅茅湾内の様々な基質に定着していると推察される。

## 引用文献

- 久保田 信 1995. マキヒゲクラゲ. 海洋と生物, 17(4): 表紙図版および解説.
- Kubota, S. 1995. Cnidome and growth of a medusa of *Cirrholovenia tetranema* (Leptomedusae, Cirrholoveniidae) in Japan. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 36 (5/6): 365-378.
- Kubota, S. 1997. Two forms of bivalve-inhabiting hydrozoans that differ in timing of medusa release. In Den Hartog, J.C. (ed.) "Proc. of the 6th International Conference on Coelenterate Biology, Nat. Natuurhistorisch Mus., Leiden, The Netherlands, 1997". pp.295-299.
- 久保田 信 1999. 日本産カイヤドリヒドラ類 (刺胞動物門, ヒドロ虫綱) の生物地理学的研究. pp.35-39. 奥谷喬司・太田 秀・上島 励 編著, 「水棲無脊椎動物の最新学」東海大学出版会, 東京.
- 久保田 信 2003. 和歌山県田辺湾およびその周辺海域から記録された有クラゲ類及び有櫛動物の目録 —生活史上でのポリプとクラゲの結合. 瀬戸臨海実験所年報, 16: 30-35.
- 久保田 信・中村鐵彦・安田 徹 1996. 対馬浅茅湾で初めて発見されたエチゼンクラゲ (刺胞動物門, 鉢虫綱). 南紀生物, 38(1): 55-56.
- W.S.F.(Weekly Sunday Fishing). 1999. 対馬に巨大なエチゼンクラゲ マキエにつられて磯際プカー. 1999年3月号: 157-158.